

三  
部  
書  
合唱教課書

伴 奏 附





獨逸民謠  
村の祭

Ländlerartig

3 2 1 3 6 5 4 2

一 ヲカネノホナニ  
二 ヲビロクタイニ  
三 ヲヤマニトヨム

モリニヨセテウキタツムラノマツリビサトニ  
うらわわたりふきなすふらのゆかしけうの  
ミヤノスマーフハンナビノオトモイサマシクケウノ

セビクフエヤターイコツメキツメクニギハヒ  
まつりうたへいはへこがねみのるよきひな  
イッツイウタハイハンハコガネミノルヨキヒチ

獨逸民謠  
五月

Allegretto

一 ウルハシキカキナハルハフケテ  
二 かのほニキカキのみそらまししてわか

イイシチののびゆくまにのぞみーにーもー

イッサイサツキノヒハワカキワレラノムネ  
るまつきののひはわかきわれらのむね

モータドルワカキワレラノムネモータドル  
もーなびるわかきわれらのむねもーなびる



第二季乙組

古川保子

大正十四年三月二十五日 印刷  
大正十四年四月五日 發行

非賣品



複製許不

載轉寫騰禁

編纂者 若狹萬次郎

印刷者 樂友社

發行者 音樂研究會

大阪市西區市岡辨天町一ノ八二

東京市牛込區筑土八幡町三四

○村の祭

一、黄金の穂波森によせて  
浮き立つ村の祭日  
里にひびく笛や太鼓

二、とどろく太鼓浦曲わたり  
ふきなす笛のゆかしや

三、野山にとよむ宮の相撲  
けふの祭うたへ祝へ  
こがねみのるよき日を

けふの祭うたへ祝へ  
こがねみのるよき日を

○五 月 秋田實作歌

一、美はしきかな春はふけて  
野にも山にもこゆき緑の  
日増し色ます五月の日は  
若き我等の胸もをどる

二、かのほこすぎのみ空さして

若きいのちの伸びゆくままに  
のぞみ燃ゆる五月の日は  
若き我等の胸もをどる

○埠頭の別れ

犬童球溪作歌

(甲) 行く手遠き旅に (乙) 浪路遠き國に  
(甲) 君は今し立つよ (乙) 我は今し行くよ  
(甲) 分つ袂に (乙) 露おきまさる

(乙甲) 何れの時にも又も君と 再び茲に其手握らん  
嗚呼名残はつきせぬ けふの別れ  
(以上反覆)

(甲) 風は木々になげき (乙) 水は岸にむせぶ  
(甲) 波は空を浸し (乙) 雲は行手とぞす  
さは云へ御國の  
(甲) 御爲に行きます (乙) この日の門出ぞ  
(乙甲) 嗚呼嗚呼勇みて別れん さらばさらば

○春の光

(一) うららの春の空  
のどけき空の色

山にも野邊にも喜び満ちたり  
咲く花霞に匂ひて  
雲とまがひ  
吹雪する花はひら  
日傘にひらひら

神のめぐみ四方にあふれ  
人の心常にしたのし春のながめ  
胸を張りて乙女もいざ歌へララ……  
生命若き春の姿ララ……  
たのしや うれしや

(二) うららの春の海  
なごめる海の色  
岸にも島にもどけき清らたり  
潮の香新たに白帆も  
軽くすべり  
櫻舞をどるたぎ